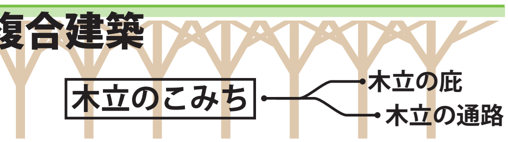
木立のこみち　人と人をつなぐ「みち」となる複合建築

木立の庇　木工の屋外製作を支援



「木立の庇」の軒下空間で行われるグリーンウッドワークの風景

「木立の庇」
奥側は「木立の通路」のブリッジ部

グリーンウッドワークを支援する空間

近年注目を集める木工製作「グリーンウッドワーク」。生木を手道具で削って気軽に取り組めるものとして、愛好者が増加している。

沢山の削り屑が出るため、屋外製作が中心となり、天候に左右されやすい。天候に左右されずグリーンウッドワークを行えるよう、既存建物に庇を増築した。

強い日差しや雨を防ぎ、快適に屋外製作ができる空間に生まれ変わった。

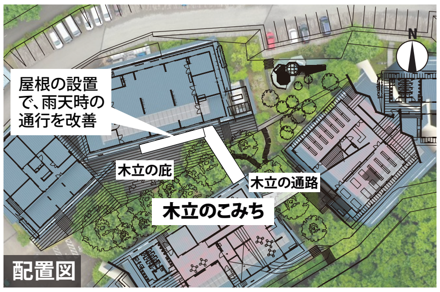
ホワイトボードを使った授業風景

樹状の方杖架構

デザインコンセプトは「樹状」。周囲の施設や中庭空間にマッチし、樹状の方杖が立ち並ぶさまを木立（こだち）に見立てた。

タープにより快適空間を拡張

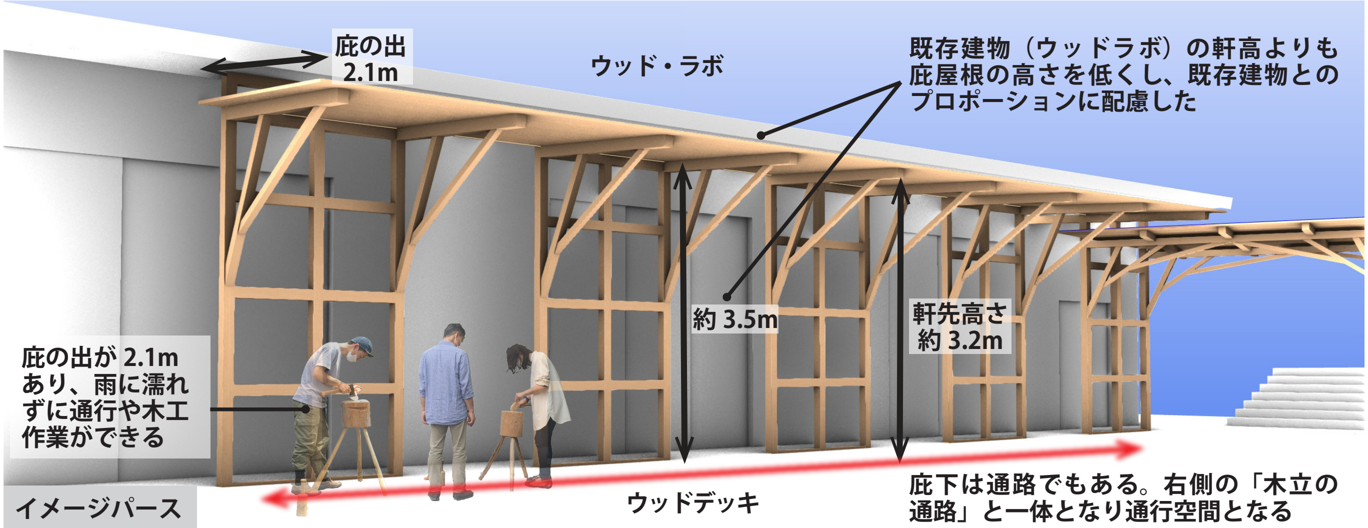
庇にタープを取り付け、最大 22 帖の軒下空間を拡張できる。屋外製作の気分を盛り上げる装置としても活躍。



配置図

交流を生む仕掛け

格子部分に固定式カウンターテーブル、ハイスツール、着脱式ホワイトボードを設け、屋外授業から休憩や昼食、談話などに活用でき、新たな交流が生まれる場となる。



イメージパース

木立のこみち　人と人をつなぐ「みち」となる複合建築

木立の通路　往来を安全で刺激的に

木立のこみち ─ 木立の庇 / 木立の通路

方杖の取り付く角度が１本１本違う

梁間方向。視覚的な面白さを生む樹状方杖

「木立の通路」 樹状架構が植栽の風景に溶け込み調和する

「木立のこみち」 建築データ

名称：木立のこみち
設計期間：2021年6月～10月
施工期間：2021年10月～2022年3月
用途：付属構造物（庇），渡り廊下（通路）
主要構造：木造　階数：地上1階
建築面積　約 14.5 ㎡（不算入部分を差し引いた面積）屋根面積　77.87 ㎡（庇 32.55 ㎡，通路 45.32 ㎡）
使用木材：ヒノキ，スギ，マツ，Jパネル

＜ 総 合 評 価 ＞

【地域の林業・木材産業への貢献】
★★★★★ ウッドマイルズ　152 km
AAA　使用された木材が森林から算出拠点まで運ばれた距離（1m3あたりの平均距離）

★★★★★	AAA	300km以下
★★★★	AA	500km以下
★★★	A	700km以下
★★	B	1,000km未満
★	C	1,000km以上

【木材のトレーサビリティの確保】
★★★ 流通把握度　76.7 %
A　使用された木材について、流通過程を正確に把握している割合

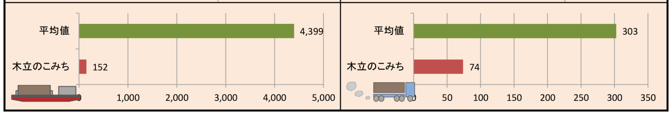
★★★★★	AAA	90%以上
★★★★	AA	80%以上
★★★	A	70%以上
★★	B	50%以上
★	C	50%未満

【木材の輸送エネルギー削減】
★★★★★ CO2削減率　75.6 %
AAA　使用された木材の輸送過程における排出CO2が平均に対して削減された割合

★★★★★	AAA	75%以上
★★★★	AA	60%以上
★★★	A	50%以上
★★	B	30%以上
★	C	30%未満

＜ 平均値との比較 ＞

ウッドマイルズ削減量（km）	4,247 km	ウッドマイレージCO2削減量（kg-CO2）	229 kg-CO2



右：ウッドマイルズ環境指標　総合評価
敷地内の森林から木材を調達し、部材架構・刻み以外のすべての工程を敷地内で行っているため、高評価となっている。

樹木の生命力を形に表す

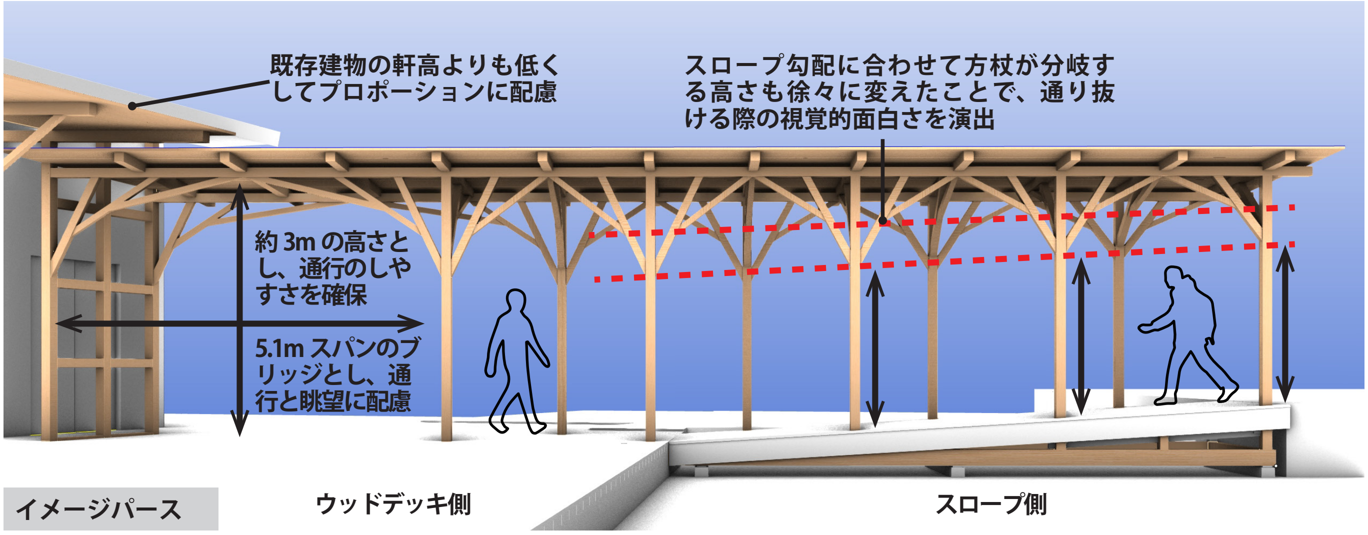
既存建物間をつなぐ屋根付き通路を建設し、雨天時の通行を快適にし、この空間にマッチする樹状架構を考案。方杖は構造的な役割を持ち、空に向かって枝を広げる形は、樹木の生命力と力強さを表象する。

千鳥状の柱配置で動線に配慮

通行者の動線を考慮し、かつ単調な架構を避け、木立の雰囲気を出すため、千鳥状に柱を配置。桁行・梁間の方杖の角度をほぼすべて変えることで、歩行者に木々の中を歩く感覚を与え、方杖の幾何学的な連なりが、通路を歩くたびに刺激を与える装置となる。

構造解析で安全性を確認

壁のない骨組架構の耐震性・耐風圧性・耐積雪性を立体骨組構造解析で確認している。



イメージパース